

学番	44	県立新潟県央工業高等学校
----	----	--------------

令和6年度

学校自己評価表（報告）

学 校 運 営 実 施 計 画					
学 校 運 営 方 針	教育目標『知性・情熱・創造』のもと、豊かな教養と探究心、確かな技術・技能を身に付け、将来の工業のスペシャリストとして心身ともに健康で、たくましい人間を育成する。				
三つの方針（スクール・ポリシー）					
育成を目指す資質・能力に関する方針 （グラデュエーション・ポリシー）	～卒業までにこのような資質・能力を育みます～ ①新たな価値創造を目指して行動できる力を育成します。 ②ものづくりの新事業創出への意欲と姿勢を育成します。				
教育課程の編成及び実施に関する方針 （カリキュラム・ポリシー）	～上記の資質・能力を育成するため、このような教育活動を行います～ ①各教科・科目でICTを活用しながら、興味や関心を高め、多様な情報を収集し、自分の考えを導く授業を展開します。 ②専門科目をとおして、「整理」「整頓」「清掃」「清潔」「整」を身に付けるとともに、基礎基本となる技能を習得し、将来必要となる資格検定を取得します。 ③地域企業、行政、大学と連携しながら、工業への興味や関心と、将来の自分を結びつける学びを行います。 ④企業実習をとおして、地域が持つ高い技術を学び、それぞれの技術を活かした高い付加価値を、企業と協働しながら創りあげます。 ⑤課題研究をとおして、学んだ知識や技能を概念化し、新たなものを協働によって創りあげた成果を、企業や地域の方々へ向けた発表会で発表します。				
入学者の受入れに関する方針 （アドミッション・ポリシー）	～このような生徒を求めています～ ① 知性・情熱・創造的教育目標のもと、ものづくりに取り組む生徒 ② 部活動に高い意識をもち、あきらめず情熱を持って取り組む生徒 ③ 地域に貢献する意欲と郷土愛をもって、課題解決に取り組む生徒				
昨年度の課題と成果	年度の重点目標		具体的目標		
○成果 ○タブレット端末を活用して、GoogleClassroomでの課題の配付や連絡等は日常化し、一部オンライン授業を実施することができた。○デュアルシステム、インターンシップ、現場実習に参加し、地域企業等と連携した探究型の課題研究を実施することができた。 ○課題 ○学校におけるICT活用と地域連携を活用した探究学習をさらに前進させる。	1 ICTを活用しながら確かな学力の定着を目指す。		・ICTを活用した授業を実践し、研修に研鑽し、実践力の向上に努める。 ・興味関心を高める授業改善と、ICTを活用した学習習慣の確立を行う。		
	2 県央工生としての自覚と誇りをもった、規範意識の高い生徒を育成する。		・いじめ未然防止と早期発見に向け、情報を共有し、組織的対応を行う。 ・元氣な挨拶の励行と生活習慣確立のための指導を行う。 ・スマートホンやタブレットなどの使用について、指導を徹底する。		
	3 生徒一人一人を伸ばす教育を実践し希望や適性に応じた進路実現を目指す。		・課題解決型の企業実習やインターンシップに取り組む。 ・地域社会との連携ではぐくまれた能力を、創造的で協働的な課題研究に活かす。		
重点目標	具 体 的 目 標	担 当	具 体 的 方 策		評 価
特色ある教育	学習意欲の醸成 学力の向上	教務部 各教科	授業規律を確保するとともに、生徒が意欲を高められるようICTを活用した授業に努める。		B
			言語活動を充実させるとともに、生徒の能動的な学習活動の充実を図る。		B
			課題・レポートなどを課し、家庭学習習慣を確立する。		B
			小テスト・週末課題・長期休業中の課題などにより、繰り返し学習習慣の定着を図る。		B
			教員相互の授業公開と授業見学及び授業参観の積極的な実施を行う。		B
	資格取得の啓発	国語科 数学科 英語科 機械加工科 電子機械科 情報電子科 建設工学科 工業科	国語科	週1回の漢字テストの実施、20点満点で15点以上70%以上を目指す。	B
			数学科	年2回の数学検定を実施し、合格率70%以上を目指す。 検定前に補習や模擬試験・個別指導を実施する。	B A
			英語科	年3回の英検を実施し、合格率70%以上を目指す。 検定前に補習や模擬試験・個別指導を実施する。	B A
			機械加工科	計算技術検定を実施、3級合格率50%以上を目標とする。	B
			電子機械科	情報技術検定を実施、3級合格率50%以上を目標とする。	B
			情報電子科	基礎製図検定を実施、合格率50%以上を目標とする。	B
			建設工学科	2級施工管理技士試験で80%以上の合格率を目指す。 試験前に補習や模擬試験・個別指導を実施する。	B A
	工業科	資格取得や大会参加などにより、ジュニアマイスター顕彰認定者3名以上を目標とする。	C		
	工業教育の 興味・関心と創造力	機械加工科 電子機械科 情報電子科 建設工学科 工業科	機械加工科	資格取得や工業系の各種大会に参加するよう奨励する。 各学年で工場見学を実施する。	A
			建設工学科	各コースで現場見学を年2回以上実施する。	A
			工業科	工業教育フェスタの成功に向けて工業科主任会議を中心に準備する。	A
	職業観、勤労観 の育成	工業科 機械加工科 電子機械科 情報電子科 就業体験委員会	工業科	工業技術の知識や技術を深めるため、外部講師を依頼し、最先端技術を学ぶ講演会を実施する。	A
			機械加工科	現場実習を通して地域の産業を理解し、郷土愛を育て職業観・勤労感を身につけさせる。	A
			就業体験委員会	工業全科によるデュアルシステム10人と建設工学科2年全員によるインターンシップを実施し、勤労観や進路意識の啓発を図る。	B

生徒指導	指導上の課題の明確化と共通認識	生徒指導部	服装、髪形、バッジ等の検査及び指導を年8回以上行う。	A	A
	問題行動を起こす生徒、件数を昨年より減らす。		A		
	指導方針の一貫性確保		教師間での指導基準の共通理解を図る。	A	A
	個別指導の重視（家庭との連絡を密にした指導の徹底）		問題行動に関する家庭訪問は担任1回以上、生徒指導部2回以上を実施し保護者と連携を密にする。	A	A
			保護者に各学期1回以上の交通指導、生活指導の啓発を行う。	A	
	集団規律の確保		月1回以上の生活習慣の指導を行う。	B	B
		バイク実技講習会やバイク・自転車の通学指導を年5回実施する。	A		
	いじめの予防と早期発見・早期指導	いじめ防止対策委員会	いじめアンケートを年3回以上実施する。	A	A
			定例職員会議での情報交換や共有を行う。	A	
			教育相談週間を年3回設ける。	A	
		家庭科	食育推進のために食育講話を年8回実施する。	B	B
		全学年	全校朝会を活用した生徒指導を実施する。	A	A
	遅刻、欠席等の連絡徹底をさせる。		B		
	挨拶の励行を指導する。		A		
	来校者への挨拶、入退室マナーの励行を毎日指導する。		A		
	清掃の励行、身の回りの整理整頓を毎日指導する。		B		
	時間厳守を徹底する。		A		
	進路指導	進路意識向上に向けたキャリア教育	進路指導部	外部講師による進路意識講演会・学習習慣支援講演会・進路ガイダンスを実施する。	A
職業適性検査・レディネステストによる意識付けをする。				C	
進路の手引きの発行により進路決定までの取り組みや受験までの流れなどを周知する。				B	
個々の生徒に対する進路希望の実現		外部講師による面接指導・希望する進路情報の提供・就職ガイダンスへの参加指導などを実施する。		A	A
		企業やハローワークとの情報交換を密に行い、生徒や保護者にその情報を公開する。		A	
		4年制大学希望者の補習を実施する。		A	
特別活動及び部活動	生徒の主体的行動力の育成	生徒会指導部	体育祭での主体的な運営や参加を図る。	A	A
	競技大会での主体的な運営や参加を図る。		B		
	県央工祭での主体的な運営や参加を図る。		A		
	部活動の活性化		部活動全体の活性化を図る。	B	B
	図書・視聴覚教育の充実	図書部教務部	図書視聴覚環境の整備を図る。	A	A
			生徒個人及び授業での図書館利用の促進を図る。	A	
			図書貸し出し冊数の増加促進を図る。	A	
			インターネットの利用環境の更新を図る。	B	
			蔵書のデータベース化を維持・管理を図る。	A	
	健康管理安全指導	生徒や保護者に対する学校保健の啓発	保健・環境部	全校及び学年を対象に保健指導を実施する。	B
保健室だよりを学期に1、2回発行するとともに、健康診断の統計結果をまとめる。				A	
保健情報の掲示物を随時作成し掲示する。				A	
心に問題を抱えている生徒及び保護者との相談やカウンセリングに協力する。				A	
学習環境の整備		感染症対策に留意し清潔な環境を整える。		B	B
		各清掃場所の清掃用具の管理を徹底する。		A	
		4月に総合防災計画及び消防計画の見直しを行う。		A	
地域との連携	地域や関係機関との連携・協力	生徒指導部	中学校や警察との情報交換等を年3回積極的に行う。	A	A
		学校評価委員会	学校評議員会、地域の声を聴く会等を通して、学校の情報を積極的に開示する。	A	A
		就業体験等委員会	デュアルシステム、インターンシップを通じた、地域企業との一層の連携促進を図る。	A	A
		教務部各教科	教育活動の様子を積極的にホームページに掲載する。	B	B
		生徒会部活動	地域行事への参加、ボランティア活動などを通して地域社会への貢献を図る。	B	B
成果	○工業教育フェスタ、現場実習、インターンシップ、デュアルシステムなどを実施し、キャリア教育に取り組む生徒の姿を地域に示すことができた。 ○生徒指導、いじめについて、未然防止を含めた組織的な指導を行ったため、昨年度よりも件数を減らすことができた。 ○学校生活に関するアンケートなどからも、基本的な学習習慣（特に家庭学習）の確立について、引き続き指導する必要がある。 ○普通教科、工業科とも、全般的に資格取得への意識啓発・受験促進はできたが、目標と掲げた取得率・合格率を達成するという所までには至らなかった。			総合評価	
			A		